

最新の技術や機械ではなく、住民が自立できる支援



▲ケニアで指導したカマド・ジコとバナナの木の皮で編んだ草履

岸田さんが活動していたエンザロ村では、不衛生な水が原因となる乳幼児死亡率の高さが問題となっていました。当時の台所は、石を地面に三角形に並べただけの「三つ石かまど」が主流。狭い台所に水の煮沸用かまどを設置し、常時煮沸するのは不可能でした。岸田さんは試行錯誤の結果、小さい頃に見た遠野の暮らしにヒントを得て、粘土製のかまどを考案。「カマド・ジコ(最初の名前はエンザロ・ジコ)」の愛称で呼ばれ、多くの家庭に普及しました。カマド・ジコが普及したことで、

乳幼児の死亡率が低下。薪の消費を抑え森林保護につながりました。さらに、裸足で生活していたケニアの人たちをけがやエイズなどの感染症から守るため、草履の作り方も指導。特に、裸足でお産に立ち会っていた助産婦たちの衛生指導に役立ちました。

かまどは粘土質の土。草履はとうもろこしやバナナの木の皮など、材料は身近にあるものを活用。お金や物を提供するのとは真の国際協力ではないという岸田さんの考えは、今も多くの人に引き継がれています。

アフリカに伝えた遠野の知恵 遠野の偉人 岸田袈裟さん

本市出身の岸田袈裟さんの偉業が道徳の教科書に掲載され、全国の小学校の授業で使われています。
上郷小学校で行われた授業の様子、岸田さんの功績をお伝えします



1_岸田さんの姪で、同町出身の菊池さんが、岸田さんの功績を説明。生徒たちは真剣に聞き入っていました 2・3_ケニアの民族衣装やバナナの木の皮で作られた草履などの実物を見たり触ったりしながら、理解を深めていました

インタビュー

世界に向け、大きく羽ばたいてほしい

岸田さんは遠野のかまどや草履をその土地に合う形で考案し、普及させた発想力・応用力に富んだ人。生前、岸田さんは「良いものは、ひとりでに広まるもの」と言っていました。岸田さんの生き方や心の在り方を学んだ子どもたちが、世界に大きく羽ばたき活躍することを願っています。

遠野文化研究センター
研究員
菊池 弥生さん



info



ケニアの田舎は、電気もガスも水道もない村が多い。貧しい暮らしをしている人たちにとって本当に必要なものは何か考えたとき、昔からの遠野の生活がヒントになりました。今年の4月から道徳の教科書に掲載されている岸田袈裟さんの話の基となった絵本『エンザロ村のかまど(福音館書店出版)』を市立図書館で貸出しています。



青年海外協力隊
野菜栽培隊員
鈴木 舞香さん

青年海外協力隊は岸田さんの講演がきっかけ

中学生の時に岸田さんの講演を聞いて、アフリカに行くことを決意しました。今はその夢が叶い、アフリカのザンビア共和国で青年海外協力隊として活動しています。岸田さんは海外を志すきっかけをくれた人。いずれは岸田さんのように、日本と海外をつなぐ活動をしたいと思っています。

遠いケニアの地で、尊敬と親しみを込めて「ママ・キシダ」と呼ばれた岸田さんの偉業は、日本の道徳の教科書に掲載され多くの子どもたちが知ることとなりました。日本とアフリカをつないだ岸田さんの活動は今、次の世代に引き継がれ、新たな懸け橋になるうとしていきます。

郷小学校で9月19日、同町出身の偉人・岸田袈裟さんの功績を学ぶ授業が行われ、6年生11人がアフリカ・ケニアの地で支援活動に尽力した岸田さんの功績を学びました。講師は、岸田さんの姪で自身もケニアで仕事をしていた菊池弥生さん。授業では、かまどの写真や映像、ケニアで作られた草履などを使って岸田さんの活動を紹介します。ケニアの音楽や民族衣装を用いて子どもたちの理解を深めました。浅沼希羅さんは「人のために世界で活動している遠野の人がいると知って驚いた。ケニアのことを学べて、興味を持てた」と声を弾ませました。

上

郷小学校で9月19日、同町出身の偉人・



4_伝承園のお年寄りから、わら草履の作り方を教わる岸田さん(左) 5_岸田さんの生家でも使われていた「改良かまど」 6_伝承園にある土製のかまど「馬釜」。2つの遠野のかまどから着想を得て、アフリカに適したかまどを作り上げた

Profile

◎きしだ・けさ(1943-2010)

遠野市上郷町出身。相模女子大学食物学科へ進学し、卒業後は食物栄養研究家としてアジアや東アフリカなど世界30カ国以上で栄養学調査を実施。ケニア共和国では、国際協力機構(JICA)の専門家として、乳幼児死亡率の低下と住民の感染症予防のため、遠野で使われていたかまどと草履の作り方を広く伝え、衛生面と生活環境の改善に尽力した。また、NPO法人少年ケニヤの友副理事長として、孤児への奨学金事業、環境教育、エイズ予防教育など幅広い分野で活躍した。

